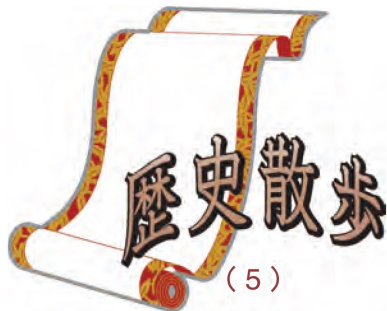




布引の滝と青山経塚

木々の緑もようやく深くなり、爽やかな初夏が近づいてきた。今回は、白山町の布引の滝をご紹介します。



東青山駅付近から、1.5キロメートルほど舗装された道を進むと大規模な墓地があり、さらに未舗装の道を2.3キロメートルほど進むと滝見台に至る。

布引の滝は、上から順に霧生滝^{きりゆう}、飛竜滝^{ひりゅう}、大日滝^{だいにち}と呼ばれる三つの滝が、まるで山の中に布を引いたかのように流れ落ちていることから名付けられたといわれている。全体の落差はおよそ50メートルといわれ、滝見台から滝の間近まで下りること

昭和24年、この滝見台を建設する工事の際に、経塚が発見され、経筒と銅鏡3枚、刀子が出土した。経塚とは、仏教の経典を後世に伝えるため、あるいは極楽往生などを願って経典などを地中に埋めたもので、「寺屋敷」の地名が残る滝見台周辺には、かつて大きな寺院があったという伝承も残されている。

この経塚は青山経塚、あるいは倭寺屋敷経塚と呼ばれており今から約

850年前、平安時代のもと考えられている。出土品は市指定文化財に指定され、白山郷土資料館で保管されている。

東青山駅から滝見台まで、標高で約200メートルほど登ることになる。室生赤目青山国定公園に指定されている豊かな自然を背景に、三連の滝の迫力をぜひ確かめてみていただきたい。(「広報津」平成18年6月1日号)



布引の滝